

三重縣護國神社の狛犬について

一般的な狛犬は、左右一方が口を開いた「阿」、一方が口を閉じた「吽」が一对として神社に置かれているのがほとんどですが、当社の青銅製の狛犬は、左右とも「阿」「阿」と口を開けています。なぜ左右とも口を開けているのかを狛犬が当神社に奉納された時に書かれた「狛犬由来記」を手掛かりに想像してみますと、もともこの狛犬は、「阿」「吽」二対が存在していたと考えられます。二対の狛犬はどこかの神社に置かれていたのかもしれませんが。

やがて大東亜戦争が始まり戦局が厳しくなると、その二対の狛犬は物資となるべく戦争に召集されましたが、戦地で傷つき、その後、疎開先で「阿」と「阿」だけが終戦を迎えたようです。昭和三十三年の当神社御造営に際し、その「阿」と「阿」の狛犬を一对として、桑名市の鍋吉铸造所の铸物師 伊藤軍市郎氏より当神社に奉納されました。

厄難を除けて無事に帰ってきた狛犬をやさしくなでて、『開運厄除』・『無病息災』を祈願してみてはいかがでしょうか。

狛犬由来記

桑名市矢田町

遺族 伊藤軍市郎氏献納

此の青銅狛犬は大東亜戦に応召せるも疎開先に終戦となり戦傷のまま鍋吉工場に復員せり今回護國神社造営に際志英靈奉護の御使として卒先奉納さる寔に奇特の至りにて其の敬神篤志永く後昆に可傳

昭和三十三年十月造管竣工記念

三重縣護國神社 宮司 林 榮治 記